人を結び、地域を結び、想いを結ぶ。

楢葉町 かわら版 No.0 創刊準備号

発行日 ： 平成28年9月15日（隔月発行）
発行 ： 楢葉町かわら版制作委員会（仮）
企画・運営 ： そよ風届け隊（ならは応援団）

連絡先 ： ☎ 070-1055-1713（代）
✉ naraha.musubu@gmail.com

編集スタッフ募集中!!

楢葉町かわら版制作委員会（仮）では、編集メンバーを募集しています！月に1~2回の活動で、打ち合わせや取材を行います。主な活動場所は楢葉・いわき市。気軽にご連絡を。遠方の方（中通り・会津地方・県外）も参加大歓迎！交通費・宿泊費はご相談ください。

楢葉町かわら版始めました

こんにちは、楢葉町かわら版制作委員会（仮）です。

「人を結び、地域を結び、想いを結ぶ」をスローガンに楢葉町民、楢葉出身の学生、町外の学生と様々な視点から楢葉町を見つめ、ひと・もの・ことを伝えます。

言い出しっぺは、私たち立命館大学の学生団体 "そよ風届け隊" です。京都から楢葉町に通い始めて今年で４年目。仮設住宅で足湯に浸かっていただきながらお話をする活動を通して、本当にたくさんの方と出会い、楢葉町の「ひと」の魅力に惹かれて活動を続けています。そんな私たちがかわら版を作りたいと思った理由は右に上げた主に３つ。

私たち自身の視点も大切にしつつ、楢葉町のみなさんと、このかわら版を創りたいと考えています。

そよ風届け隊って！？

立命館大学の学生を中心に立ち上げられた福島ボランティア便「そよ風届け隊」。2012 年７月初めて福島でボランティア活動をした学生が、**もう一度福島で活動したい！福島のことを他人ごとにしたくない**という想いから「そよ風届け隊」は生まれました！名前の由来は、「福島の方々に、そよ風のようにあたたかく心地よい時間を届けたい」という想いから。

現在は、「楢葉町でできることを」と、これまでにも様々な活動を実施しており、町民の方一人ひとりの顔が見える関係を大切に活動しています。

写真：活動の様子
1 仮設住宅で開催した「足湯カフェ」（2014 年）
2 3 楢葉町・双葉郡・いわき市の子どもたちとの めちゃめちゃよくばりキャンプ（今年８月）

私たちがかわら版を作りたいと思った理由
1：楢葉町のことをもっと知りたい！もっとたくさんの人と出会いたい
2：ボランティアとしての関わりを越えて、楢葉町の方と同じ立場で活動したい
3：楢葉町の方々の想いを、町民のみなさんはもちろん、町外の人にも伝えたい

インタビュー

渡辺喜久さん ほっつぁれ DE いいんかいっ ?! 実行委員長 × **新田勇太さん** ほっつぁれ DE いいんかいっ ?! 事務局

JR 竜田駅前で８月 14 日（日）に開催された「ほっつぁ～れ 2016 盆楽祭」。震災後 6 年ぶりとなる町内の盆踊りには 1000 人を超える方が来場する盛り上がりでした。主催である「ほっつぁれ DE いいんかいっ ?!」の実行委員長である渡辺喜久さんと新田勇太さんにお話を伺いました。
（聞き手）森 亮太（盆楽祭写真）松本正子

—ほっつぁれ DE いいんかいっ ?! 設立の経緯

新田さん　自分たちの町をよくするには、これからの世代である若い人たちが盛り上げていくことが必要であり、若者が企画し、作り上げていくイベントを通して、全国に明るい話題を発信すること、町の伝統を次の世代につなぐ役割を担うべく発足した。

—名前がインパクトありますよね。

渡辺さん　俺らはいいなって思うんだけど、町民の中には…って思ってる人もいる。

新田さん　町の現状をほっつぁれ鮭※に例えて、このままでいいのかって一人ひとりに問いかけている名称である。今までほっつぁれというと鮭を指して、それ単体の言葉だった。「ほっつぁれ」という言葉が新たに若者の団体というイメージになりつつあるのであれば、いい形だと思うけどね。元々楢葉で使われていた言葉であり、マイナスのものを逆にプラスにしていくっていうような。

※ほっつぁれ鮭：川を上って産卵を終え、筋肉が痩せ細った鮭を指す楢葉の方言

—盆楽祭の準備、大変そうでした。

渡辺さん　期間もなかった。６月に発足して８月にイベント。２ヶ月しかなかった。発足してどう動くのかってのも明確に決まってなかったし。その中でイベントを開催することを重視した。初めてやってみて、結果としては良かった。その分、事務局なり企画検討なりが大変だったと思う。

—読者に伝えたいことは？

渡辺さん　盆踊りでは、ふるさと楢葉ってのは帰ってきてても帰ってこなくても一緒だっていう部分が出したかったかな。そういうのが伝わればなって思ってる。

新田さん　自分たちの故郷で、自分たちが作り上げたイベントでみんなと一緒に、自分たちも楽しみたいっていうのが大前提だから。

渡辺さん　そうだよな、楽しんでる自分らの発信だかんな。

新田さん　自分たちも楽しめる実行委員会作ろうよ、って言ったのがこれ（ほっつぁれ）。

—自分たちも楽しむことが大切なんですね！

渡辺さん　自分たちが楽しめないイベントが他の来た人たちに伝わんねえよな。

新田さん　自分たちも楽しみ、来た人にも楽しんでもらう。一番はそこかな。

—ほっつぁれでやってみて、変化は？

新田さん　若者たちが生き生きと町でいろんなことやってる、頑張ろうとしてる姿を多くの人に知ってもらいたい。多くのメディアにもほっつぁれ DE いいんかいっ ?! を取り上げてもらい、それも一つの自分たちが目指すべき賑わいであったり、町の明るい話題を発信していく目的には近づけていけてるのかなと。

渡辺さん　会社でも結構言われるもんな。テレビ出てたな、とか。見てる人は見てんだなあって。少なからず発信の部分では、少しづつ、伝わってんのかなって思う。

新田勇太さん（左）と渡辺喜久さん（右）

盆楽祭には実際僕も参加しましたが、本当に楽しい空間でした。対談では「ふるさと楢葉は帰ってきてても帰ってこなくても一緒」という言葉が響きました。新田さん、渡辺さんお忙しい中ありがとうございました！（森 亮太）

キックオフミーティング

８月６日（土）に、まなび館（楢葉南小）で楢葉町かわら版のキックオフミーティングを行いました。参加者は学生 3 名と町民 5 名の計８名です。

まず初めに、二人一組でインタビューをし合い、相手のことを他の人に伝える他己紹介を行いました。趣味や制作委員に申し込んだ理由などを知ることで、これから一緒にかわら版を作っていくメンバー同士をよく知ることができました。

また、かわら版を作成していく上で大切にしたいことや、今回の準備号の内容について意見を出し合いました。

参加者の一人にキックオフミーティングの感想を聞いたところ、「制作委員それぞれのかわら版に対する期待や、楢葉への熱い想いを感じることができて、久しぶりにワクワクした。これから一緒にかわら版を作っていくことが楽しみだ。」とのことでした。

かわら版が、住む場所は離れていても、楢葉への想いを結ぶツールとなれるように、また、学生や町民といった異なる立場の視点から見る楢葉の魅力や、頑張っている人の様子を伝えられるように作成していきます。

ありがとうの言葉

あの 3.11 直後国内は勿論世界各地からの支援物資や義援金に感謝し、人と人の絆の大切さに気付かされた筈である。

しかし、5 年半が経過した今、私たちはあの時の感情を持ち続けているだろうか？私自身大半の時間感謝の心を忘れ果てている。その事に気づかせてくれたのが学生さんの活動です。あの時の感情を呼び戻す一助になればと考え" ありがとうの言葉" を担当させていただきます。

吉田茂（楢葉町井出西原）

宛　先
塚田のおかあさん（新潟県小千谷市）

差出人
矢内藍さん（上井出出身・大学３年生）

東日本大震災の発生から丸５年が経った今、私が「ありがとう」を伝えたい人は" 塚田のおかあさん" です。

私たちは、約２ヶ月間の避難生活の中で、父の知り合いである、新潟県小千谷市の塚田家というお宅に一週間お世話になりました。そのご家族の中のお母さんが、塚田のおかあさんです。

小千谷市は 2004 年に、福島と同じように大きな大震災に遭い、それを乗り越えた土地でもあります。そんな土地に住むおかあさんは優しく、笑顔が可愛いだけでなく、頼もしい強さを持ったおかあさんです。

おかあさんは、長い移動で疲れた私たちを暖かく迎い入れ、もてなしてくれました。外から帰ると毎日おかあさんの美味しい料理が待っていました。ご飯を食べながら、私たちの話をいつも優しく聞いて下さり、私にとって第二の母親ができたかのような、そんな温かい存在でした。塚田家のみなさん、そして新潟のみなさんがもし困った時には、今度は私たちが必ず力になろうと思います。

塚田家のおかあさん、本当にありがとう。また会いに行くね！

編集長：森亮太　副編集長：坂本龍汰　編集スタッフ：西崎芽衣・細堀和喜・松本正子・松本昌弘・森雄一朗・吉田茂（五十音順）　平成28年度楢葉町心の復興事業採択

編集後記

町の人と、学生が作る新しい読み物、多くの人に読んでもらいたいと思っています。まだまだ始まったばかりで、これからの展開がとても楽しみです。（森亮太）

関西の学生と楢葉の人が合同でつくるこのかわら板は、今までの楢葉町になかった新しい視点のものになると思います！お楽しみにお待ちください！（坂本龍汰）

楢葉の伝統を大切にしつつも、新しいアイデアが盛りだくさんの盆楽祭は、楢葉の若い方々だからこそできるイベントだと感じました！このような新しい取り組みやそこに込められた想いを伝えていけるかわら版を作っていきたいです。（西崎芽衣）

9 月 4 日（復興祈念の集い）に合せて発行しました号外、皆さん読まれましたか？前列左端に写っているのが私です。変顔でこれからも盛り上げます。（細堀和喜）

外からの学生、地元出身の学生、町民が関わる、かわら版がきっかけで、新たな広がりや繋がりが生まれ、ふるさと楢葉との距離が少しでも近くに感じてもらえればと思います。（松本昌弘）

伝えたいことを文字にして正しく伝えるのは難しいと感じた準備号でした。これからも、みなさんが人に話したくなるようなかわら版を作っていきたいです（森雄一朗）

文章を作成するにあたり、言葉の使用法とか大変なことがありましたが、何とか皆んなの力で発行することができました。（吉田茂）

楽しみが増えました。（松本正子）

次号に向けて募集中！

こんな記事を書いて！
- 記事のリクエスト
- イベントするから告知したい　イベントの告知
- みんなに伝えたい！　おめでたい話（結婚・出産など）

連絡先
楢葉町かわら版制作委員会（仮）
☎ 070-1055-1713（代）
naraha.musubu@gmail.com